ISSN 1349-2020

教育方法の探究

第 13 号

2009 年度

京都大学大学院教育学研究科
教育方法学講座

教育方法の探究　第13号

目　次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・田　中　耕　治・・・i
目次　・・・iii

【研究論文】
学力調査と教育評価　・・・田　中　耕　治・・・1
学力評価の現状と課題
——「児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ」での
議論を踏まえて——　・・・西　岡　加名恵・・・7
韓国における「入学査定官制（Admissions Officer System）」の
実態と課題　・・・趙　　卿　我・・・17
『カリキュラムのための指針（歴史・地理・社会分野）』
——イタリアにおける歴史教育・地理教育の現状——　・・・徳　永　俊　太・・・25
継続的な共同授業研究がもたらす大学院生の学び
——算数の単元「変わり方」への関わりを事例として——　・・・本　所　　恵・・・33

【教育方法学講座2009年度提出の修士論文・卒業論文題目一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・41
【教育方法学講座2009年度提出の修士論文・卒業論文要旨】・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

修士論文要旨
大下卓司・奥村好美・小山英恵・高橋菜穂子・竹内一 真
中陽佑・藤村 彩夏・山本はるか・若井貴裕・

卒業論文要旨
秋田明愛・北山彩・合田一成・谷垣諭志・佐藤智樹
西井悠子・舛井美那・村上幸平・森智里

教育学方法講座『教育方法の探究』執筆要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
執筆者紹介　・・70

教育方法学講座紀要「教育方法の探究」執筆要綱

2003. 1. 16（作成）

2006. 12. 11（改訂）

2007. 4. 1（改訂）

1) 編集委員会の構成について

編集委員会は、京都大学大学院教育学研究科・教育方法学講座の教授、准教授、講師、助教によって構成される。

2) 執筆者の資格について

論文の執筆資格に関しては、原則として、教育方法学講座に在籍する教員および博士後期課程の大学院生とする。ただし、修士課程の大学院生、研修員、日本学術振興会特別研究員などで、特に教員の推薦がある者については、編集委員会の承認を経て、執筆することができる。

3) 執筆枚数について

論文の執筆枚数は、原則として、出来上がり 8 ページ（400 字詰め原稿用紙 40 枚程度）以内とする。

4) 執筆テーマについて

論文の執筆テーマについては、広く教育方法学ならびに発達教育学（発達心理学）に関わるものであれば特に制約を設けない。基本的に、各自の専門テーマ（例えば、修士論文のテーマ等）以外であっても執筆可とする。

5) 論文題目の提出について

論文題目については、指導教員と相談の上、各年度 12 月第 1 週の月曜日までに編集委員会に提出するものとする。

6) 論文原稿の提出について

論文原稿については、指導教員による査読を経て、各年度 2 月末日までに、電子化された文書ファイルとともに編集委員会に提出するものとする。

執筆者紹介（執筆順）

田中　耕治	京都大学大学院教育学研究科・教授
西岡　加名恵	京都大学大学院教育学研究科・准教授
徳永　俊太	京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程
本所　恵	京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程 （日本学術振興会特別研究員）
趙　卿我	京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程
大下　卓司	京都大学大学院教育学研究科・修士課程
奥村　好美	同　上
小山　英恵	同　上
中陽　佑	同　上
藤村　彩夏	同　上
山本　はるか	同　上
若井　貴裕	同　上
竹内　一真	同　上
高橋　菜穂子	同　上
秋田　明愛	京都大学教育学部・学生
北山　彩	同　上
合田　一成	同　上
谷垣　諭志	同　上
西井　悠子	同　上
森　智里	同　上
村上　幸平	同　上
佐藤　智樹	同　上
舛井　美那	同　上

編集委員　京都大学大学院教育学研究科・教育方法学講座

田中　耕治	教　授（教育方法分野）
やまだ　ようこ	教　授（発達教育分野）
西岡　加名恵	准教授（教育方法分野）
明和　政子	准教授（発達教育分野）

教育方法の探究

第 13 号
2009 年度
（非売品）

2010 年 3 月 20 日　印刷
2010 年 3 月 31 日　発行

編集発行者
京都大学大学院教育学研究科・教育方法学講座
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
Tel.075-753-3046（田中耕治）
印刷　博文堂印刷所
Tel.075-841-6389